

二〇二四年八月一六日

受け取れば予期せぬ重み黒葡萄
ふくよかな腹で踏ん張る茄子の牛
安産を願ひ新藁牛小屋に
正午いま半旗だらりと終戦忌
鰯雲貫くやうに飛行雲

あひる
康子
みきお
かえる
智恵子

二〇二四年八月一五日

吹き渡る風の甘さよ葡萄畑
下ろされて這ひ這ひはやし夏座敷
マネキンを脱がせて買ひし夏セール

風民
なつき
あひる

二〇二四年八月一四日

逃げ場なき信号待ちや早稲匂ふ
この歳になればわかると生身魂
花火師の海を見ている昼の顔

うつき
明日香
よし女

二〇二四年八月一三日

秋灯や棺の母に紅をさす
郷里より盆供にせよと早場米
隣家より漂ふ芋殻焚くにほひ
飛び石といふ飛び石に青蜻蛉

康子
うつき
むべ
かえる

二〇二四年八月一二日

一村を洗ひ上げた夕立かな
帰省子のキャンセルという訳聞かず
就農子手作り野菜盆供とす
風見鶏向き変へ秋の来てゐたり

風民
せいじ
たか子
澄子

二〇二四年八月一日

縞瓜の縞くつきりと塩揉みに
子ら集ひきて亡き夫の盆迎へ
白杖の人へ手向ける白日傘
足元に涼風通ふ今朝の庭

むべ
たか子
あひる
ふさこ

二〇二四年八月一〇日

体操の号令を消す蝉時雨
滑り台触るるを拒む炎暑かな

うつき
風民

毎日句会みのる選・二〇二四年八月一九日